

# 津島市のコミュニティ・スクール(CS)・ 地域学校協働活動の取組とは

昨今、少子高齢化や地域のつながりの減少による地域の教育力の低下や、発達障害や貧困といった福祉的な課題の増加などを背景に、学校が抱える課題が複雑化・多様化する中、学校だけではなく、社会全体で子どもの育ちを支えていくことが求められています。

一方で、グローバル化、人工知能（AI）の進化などにより、変化が激しく予測困難な未来が来ることが予想されています。現在ある仕事の多くが十年後、二十年後には消滅し、子どもたちの半数近くが現在存在していない職業に就くことになり、学校で教えていることが将来の社会で通用しないのではないかと指摘がされています。

2020年からの新学習指導要領では、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を重視し、その理念を掲げています。

この理念の実現に向けては、組織的・継続的に地域と学校が連携・協働していくことが大変重要です。そのために、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と地域学校協働活動の推進を文部科学省は、約20年前から全国的に広めていました。

コミュニティ・スクール（日本語では、「学校運営協議会」といいます）とは、保護者や地域住民等が一定の権限と責任をもって学校運営に参加することで、育てたい子ども像、目指すべき教育のビジョンを共有し、目標の実現に向けて協働する仕組みのある学校のことです。分かりやすい言葉でいうと、「地域とともにある学校づくり」をする学校のことです。

★文部科学省のHP「学校と地域でつくる学びの未来」をご覧ください。

<https://manabi-mirai.mext.go.jp/>

## （1）津島市コミュニティ・スクール連絡協議会とは

文部科学省の理念の実現に向けて、2018年（平成30年度）に、津島市は、神守中学校を皮切りに、2022年までに、すべての小中学校に、コミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校のこと）を組織しました。すべての学校に設置されたので、市内のどの子どもたちにも同じような環境を整え、公平・平等に教育が進むように、市内のすべての小中学校の地域

の代表者が集まって、それぞれの課題を学校とともに話し合いながら、よりよい教育の方向を求めて進んでいる組織です。

「津島市コミュニティ・スクール連絡協議会」は、組織の名前が長く、分かりにくいため、なかなか市民の皆さんに知られる存在になっていませんでした。そこで、もっと市民の皆さんに分かりやすく、親しみやすいものなるよう、「愛称とロゴマークの募集コンクール」を2025年8月の夏休み中に市内の児童・生徒から募集をしました。審査会を経て、トップページのように「つしまっ子応援団」の名前に決まりました。

## (2) 各小中学校の地域学校協働本部とは

地域学校協働本部の前身は、2010年10月に、市内神守中学校（かもりちゅうがっこう）で、「神守中学校支援地域本部」という名前で、学校の中に支援本部を置いて、最初に学校支援活動が始まりました。そして2016年に、津島市は、市内12小中学校すべてで、「〇〇学校地域学校協働本部」を立ち上げました。支援という言葉は一方向（地域から学校へ）の意味合いが強く、これからの時代は、双方向（学校と地域の）で活動することが重要として、文部科学省が名前を変えました。

「地域学校協働本部」とは、幅広い地域住民の参画を得て、地域総がかりで子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして協働して行う様々な活動を推進する組織のことです。

学校の授業等を地域の方がサポートしたり、または、地域が主体となって、これからの津島市を担う子どもたちに、実際に体験活動等を通して津島の良さを伝える組織のことです。

コミュニティ・スクールでは、学校づくりを中心として進め、地域学校協働活動の中では、地域づくりの目的も兼ねて、一体的に活動推進します。

現在では、中学生のボランティア活動も、市内すべての中学校で始まりました。

社会貢献する意識の醸成と、地域のために頑張っている大人の皆さんと力を合わせてイベントや活動をすることで、津島市の未来を担う人を育てようという目的があります。

中には、中学生が小学生に勉強などを教える活動も進んでいます。中学生の姿が小学生の夢や目標になることもあります。このように、活動を通して人の循環が生まれ、次の世代に受け継がれていくことを目指して、12校のCSと地域学校協働本部は進んでいます。